

しょう6 こくご「物語・随筆を読む」その3

なまえ _____ がつ にち てん _____ / 20

- 1 ^{あめ}雨^{みち}あがりの道で、^{みち}みみずが道の^ま真ん中^{なか}にいた。ふまれないように、ゆうきはそっと^{くさ}草むらへ返^{かえ}してやった。

ゆうきの^{こうどう}行動^わから分かることは？

ア ^{ちい}小さな^い生き^{もの}物の^{いのち}命も^{たいせつ}大切にしている ^{くさ}イ 草むらで^{あそ}遊びたい ウ とてもいそいでいた
エ ^すみみずが好きな^{だけだ} ^{こたえ} _____

- 2 ^{おとうと}ひろとは ^{じてんしゃ}弟に^の自転車^{のかた}の^{おし}乗り方^{なんど}を^{ころ}教^{おとうと}えた。^{ささ}何度も^{じぶん}転ぶ^{ささ}弟を^{ささ}支える^{ささ}うち、^{じぶん}かつて^{じぶん}自分に^{なんじかん}何時間^つも^あ付き合^{ちち}って^{かお}くれた^{かさ}父^{かさ}の^{かさ}顔が、ふと^{かさ}重^{かさ}なった。

ひろとが^き気づいたことは？

ア ^{おとうと}弟は^{うんどう}運動^{にがて}が^{ちち}苦手^{おな}だ^{じぶん}という^{ささ}こと ^{ささ}イ 父も^{ささ}同じ^{ささ}ように^{ささ}自分^{ささ}を支^{ささ}えて^{ささ}く^{ささ}れていた^{ささ}こと
ウ ^{ちち}父は^{じてんしゃ}自転車^{にがて}が^{ちち}苦手^{じてんしゃ}だった^{きけん}こと ^{きけん}エ 自転車^{きけん}は^{きけん}危険^{きけん}だ^{きけん}という^{きけん}こと ^{こたえ} _____

- 3 ^{うんどうかい}運動会^{あさ}の朝^{そら}、^{そら}空は^{そら}どんより^{そら}とくも^{そら}っていた。^{そら}それでも^{そら}みきは、^{なんど}何度も^{れんしゅう}練習^{れんしゅう}した^{れんしゅう}ダンスの^{れんしゅう}ことを^{れんしゅう}思う^{れんしゅう}と、^{れんしゅう}雨^{れんしゅう}の^{れんしゅう}こと^{れんしゅう}など^{れんしゅう}気^{れんしゅう}になら^{れんしゅう}なかつた。

みきが^{あめ}雨^きを^き気^きにしな^きかつた^きのは ^{なぜ}なぜ？

ア ^{あめ}雨が^す好き^すだから ^{れんしゅう}イ 練習^{せい}の^{せい}成果^{せい}を出^{せい}す^{せい}こと^{せい}で^{せい}頭^{せい}が^{せい}いっ^{せい}ぱい^{せい}だ^{せい}った^{せい}から
ウ ^{うんどうかい}ダンス^{ちゅうし}をや^{ちゅうし}め^{ちゅうし}たい^{ちゅうし}から ^{ちゅうし}エ 運動会^{ちゅうし}が^{ちゅうし}中止^{ちゅうし}だ^{ちゅうし}から ^{こたえ} _____

- 4 ^{いもうと}かけっこで^なころ^なんで^なしまった^な妹^な。泣^なき^なそう^なだ^なった^なが、^{さいご}最後^{はし}まで^{はし}走^{はし}り^{はし}き^{はし}って^{はし}ゴール^{はし}した。
^{あね}姉^{あね}の^{あね}わたし^{あね}は、^{おも}思^{おも}わ^{おも}ず^{おも}大^{こえ}きな^{こえ}声^{こえ}で^{こえ}名^{なまえ}前^{なまえ}を^{なまえ}よ^{なまえ}ん^{なまえ}だ。

わたし ^{あね}私^{こえ}が大^{こえ}きな^{こえ}声^{こえ}で^{こえ}名^{なまえ}前^{なまえ}を^{なまえ}よ^{なまえ}ん^{なまえ}だ^{なまえ}のは ^{なぜ}なぜ？

ア ^{いもうと}妹^{いもうと}を^{いもうと}おこ^{いもうと}って^{いもうと}いた^{いもうと}から ^{ころ}イ 転^{ころ}んだ^{ころ}のを^{ころ}笑^{ころ}った^{ころ}から
ウ ^{はし}あき^{はし}ら^{はし}め^{はし}ず^{はし}走^{はし}り^{はし}き^{はし}った^{はし}妹^{はし}を^{はし}た^{はし}た^{はし}え^{はし}た^{はし}か^{はし}った^{はし}から ^{はや}エ 早^{はや}く^{はや}帰^{はや}り^{はや}た^{はや}か^{はや}った^{はや}から
^{こたえ} _____

- 5 けん^{ひゃくてん}たは、百^{とうあん}点の答案をかばん^{おく}の奥にしまった。となりの席^{せき}の友だち^{とも}が、テスト^{てん}の点が悪^{わる}くて落ち^おこんでいたからだ。

けん^{とうあん}たが答案をしまったのはなぜ？

ア 先生^{せんせい}にしかられたから イ 点数^{てんすう}が悪^{わる}くてはずかしかったから

ウ 答案^{とうあん}をなくしたくなかったから エ 落ち^おこんでいる友だち^{とも}を気づ^きかったから

こたえ _____

- 6 にゅういん^{とも}した友に手紙^{てがみ}を書^かいた。うまくはげませる言葉^{ことば}が見つ^みからず、ただ「待^まってるよ」とだけ書^かいた。それでも、僕^{ぼく}の気持^{きも}ちはこもっていた。

「待^まってるよ」の一^{ひと}言^{こと}にこめられた気持^{きも}ちは？

ア 友^{とも}をせめる気持^{きも}ち イ 手紙^{てがみ}がめんどうな気持^{きも}ち ウ 友^{とも}の回復^{かいふく}を願^{ねが}い、帰^{かえ}りを待^まつ思^{おも}い

エ 早^{はや}く手紙^{てがみ}を書^かき終^おえたい気持^{きも}ち こたえ _____

- 7 そぼ^{はたけ}の畑^{てつだ}を手伝^{つち}った。土^{おも}は重^{こし}く、腰^{こし}もいたくな^{ゆうがた}った。夕方^{そぼ}、祖母^{いま}がくれたトマトは、今^{いま}まで食^たべたどのトマトより^{かん}もあまく感^{かん}じた。

トマトが「あまく感^{かん}じた」のはなぜ？

ア おなかがいっぱい^{さとう}だったから イ 砂糖^たをかけて食^たべたから

ウ 自分^{じぶん}で働^{はたら}いたあとに食^たべたから エ 特別^{とくべつ}な品^{ひん}種^{しゅ}のトマトだったから こたえ _____

- 8 おとうと^{だいじ}が大事^{だいじ}なプラモデルをこわしてしまった。おこりそうにな^{おとうと}ったけ^みいただが、しょんぼり^{いっしょ}する弟^なを見て、「一^い緒^いに直^いそう」と言^いった。

けいたがおこらな^{おとうと}かったのはなぜ？

ア 落ち^おこむ弟^{おとうと}を思^{おも}いやったから イ 弟^{おとうと}がこわ^{おとうと}いから ウ プラモデル^{おとうと}がきらいだから

エ 直^{なお}し方^{かた}を知^しっていたから こたえ _____

- 9 コンクールの結果は銀賞^{ぎんしょう}だった。金賞^{きんしょう}をねらっていたみんなはしずんだが、りなは「来年こそ^{らいねん}」と、こぶしをにぎった。

りなが「こぶしをにぎった」ときの気持ち^{きも}は？

ア もうやめたい イ 音楽^{おんがく}がきれいになった ウ くやしさをバネに次^{つぎ}をめざそうとしている

エ 銀賞^{ぎんしょう}で大満足だ^{だいまんぞく} こたえ _____

- 10 テストが返^{かえ}って来^きた。思^{おも}ったより点^{てん}が低^{ひく}くてがっかりしたが、間違^{まちが}えた所^{ところ}を見直^{みなお}すと、「次^{つぎ}はここ^きに気^きをつけよう^{まえ}」と前^むを向^むけた。

「前^{まえ}を向^むけた」のはなぜ？

ア 点^{てん}が高^{たか}かったから イ テストがなくな^なったから ウ 間違^{まちが}いを次^{つぎ}に生^いかそうと思^{おも}えたから

エ 見直^{みなお}しをやめたから こたえ _____

- 11 雨^{あめ}の日^ひ、かさを忘^{わす}れたゆうまに、みさきが「入^{はい}っていきなよ」とかさ^さを差^さし出^だした。ゆうまは少^{すこ}し照^てれながら、「あ^ありがとう」と小^{ちい}さく言^いった。

ゆうまが照^てれたのはなぜ？

ア 雨^{あめ}がきれいだから イ みさきをおこっているから ウ かさ^{かさ}が重^{おも}かったから

エ 親切^{しんせつ}にされてうれしく、少^{すこ}しはずかしかったから こたえ _____

- 12 転校生^{てんこうせい}のさくらは、教室^{きょうしつ}の入^いり口^{ぐち}で足^{あし}が止^とまった。知^しらない顔^{かお}ばかりだったからだ。そのとき、まゆが「とな^あり、空^あいてるよ」と笑^{わら}いかけてくれた。さくらの肩^{かた}の力^{ちから}が、すっとぬけた。

さくらの「肩^{かた}の力^{ちから}がぬけた」のはなぜ？

ア まゆがやさしく声^{こえ}をかけてくれて安^{あん}心^{しん}したから イ 荷物^{にもつ}を下^おろしたから

ウ 教室^{きょうしつ}がしずかだったから エ つかれて眠^{ねむ}くな^なったから こたえ _____

- 13 はじ つく りょうり 初めて作った料理は、こげたホットケーキだった。それでも父は「店の味より好きだな」と言って、全部食べてくれた。

ちち ぜんぶ た 父が全部食べてくれたのは なぜ？

ア 子どもががんばって作ったことがうれしかったから イ こげた味が本当に好きだから
ウ 店の料理がきらいだから エ おなかがすいていたから こたえ _____

- 14 か きんぎょ し 飼っていた金魚が死んでしまい、りなは庭にお墓を作った。「ありがとう」と手を合わせると、なみだがこぼれた。

きも ちか りなの気持ちに近いのは？

ア はや あたら きんぎょ 早く新しい金魚がほしい イ にわ あそ 庭で遊びたい ウ きんぎょ 金魚がきらいだった
エ きんぎょ わか 金魚とのお別れがかなしい こたえ _____

- 15 かぞく かわら き いし つ 家族で川原に来た。石を積んではくずし、笑い合う 弟 たち。ふだんは大人ぶる兄も、この日ばかりは子どもの顔になって、一緒に遊んだ。

あに ようす わ 兄の様子から分かることは？

ア ふだんはかくしている素直な心が出ている イ いし す 石が好きなだけだ ウ おとうと 弟 たちがきらいだ
エ はや かえ 早く帰りたい こたえ _____

- 16 そぼ つく しる すこ 祖母の作るみそ汁は、少ししょっぱい。でも、その味を思い出すと、なぜだか心があたたかくなる。

こころ 「心があたたかくなる」のは なぜ？

ア そぼ おも で 祖母との思い出がこもった味だから イ しょっぱいのが好きだから ウ しる あつ みそ汁が熱いから
エ おなかがすいたから こたえ _____

- 17 てんこうしょにち ^{した} ^む 転校初日、^{おな} ^こ ^{いっしょ} ^{きゅうしょく} きんちょうで下を向いていたそうた。すると、同じはんの子が「一緒に給食
^{はこ} ^{こえ} ^{かお} ^{あか} 運ぼう」と声をかけてくれた。そうたの顔が、ぱっと明るくなった。

そうたの顔が明るくなったのはなぜ？

ア はんが自由だから イ 家に帰れるから ウ 声をかけてもらえて安心したから

エ 給食が好きだから こたえ _____

- 18 ゆうきはリレーでバトンを^お 落とした。レースのあと、あやまるゆうきに、チームのみんな
は「次はもっと速くなって返そうよ」と笑った。ゆうきは涙をふいて、顔を上げた。

「顔を上げた」ときのゆうきの気持ちは？

ア まだくやしくて泣きたい イ みんなにおこっている

ウ 仲間の言葉にはげまされて前向きになった エ レースの結果はどうでもよい

こたえ _____

- 19 はっぴょうかい ^{はは} ^{さいご} 発表会でピアノをまちがえてしまったあい。だが、母は「最後までひききったね」と、
^{はくしゅ} あたたかい拍手をくれた。

母の拍手にこもっていた気持ちは？

ア ピアノがきれいな気持ち イ 間違いをせめる気持ち

ウ 間違えてもがんばった娘をみとめる気持ち エ 早く終わってほしい気持ち こたえ _____

- 20 おばあちゃんの家の古い時計は、^{すこ} 少しおくれる。母は「直そうか」と言ったが、おばあち
ゃんは「これでいいの」とやさしく笑った。

おばあちゃんが「これでいい」と言ったのはなぜ？

ア 思い出のつまった時計をそのままにしておきたいから イ 時計に興味がないから

ウ 時間を知りたくないから エ 直すお金がないから こたえ _____

こたえ しょう6 こくご「物語・随筆を読む」 その3

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 ア 小さな生き物の命も大切にしている | 11 エ 親切にされてうれしく、少しはずかしかったから |
| 2 イ 父も同じように自分を支えてくれていたこと | 12 ア まゆがやさしく声をかけてくれて安心したから |
| 3 イ 練習の成果を出すことで頭がいっぱいだったから | 13 ア 子どもががんばって作ったことがうれしかったから |
| 4 ウ あきらめず走りきった妹をたたえたかったから | 14 エ 金魚とのお別れがかなしい |
| 5 エ 落ちこんでいる友だちを気づかったから | 15 ア ふだんはかくしている素直な心が出ている |
| 6 ウ 友の回復を願い、帰りを待つ思い | 16 ア 祖母との思い出がこもった味だから |
| 7 ウ 自分で働いたあとに食べたから | 17 ウ 声をかけてもらえて安心したから |
| 8 ア 落ちこむ弟を思いやったから | 18 ウ 仲間の言葉にはげまされて前向きになった |
| 9 ウ くやしさをバネに次をめざそうとしている | 19 ウ 間違えてもがんばった娘をみとめる気持ち |
| 10 ウ 間違いを次に生かそうと思えたから | 20 ア 思い出のつまった時計をそのままにしておきたいから |